

## 「骨太の方針2021」について

## 「骨太の方針」を「父の日」に思う

医薬経済社  
坂口 直

日本生命が6月15日に発表した「父の日」に関するアンケート調査が興味深い。妻・母・子の立場で、「夫・父が家事・育児を積極的に行っている（行うようになった）」と回答した人のうち76.5%が父の日にプレゼントを「贈る」と回答した一方で、「行っていない（消極的になった）」と回答した人で「贈る」と回答したのは49.7%にとどまった。日頃の行いが如実に表れたものであり、日々の積み重ねがいかに大切か思い知らされる。

家族でさえ一朝一夕とはいかない信頼関係の構築は、他人であればなおさら容易にいかない。ましてや一度不信感を抱かれてしまえば至難の業だ。品質問題によって小林化工、日医工と業務停止命令が下され、後を追うかのように長生堂製薬でも不適切事案が判明した。ジェネリック医薬品に対する国民の不信感はそう簡単には拭えないものとなり、6月18日に閣議決定された政府の「骨太の方針2021」には、ジェネリック医薬品を名指して「品質及び安定供給の信頼性確保」の文言が明記されてしまった。

人の生命に直結する「医薬品」を扱う製薬会社にとっては、かなり手厳しい沙汰だ。過去に「ゾロ」と蔑まれ、辛酸を嘗めてきた各社にとってイメージの大切さは身に染みてわかっているはずだ。政府のジェネリック医薬品使用促進策の追い風を受け、業界全体が急成長を遂げた裏側には、テレビCMや新聞広告、あるいは市民公開講座などの地道な普及活動があった。そんな数十年にもわたる努力が、ここ1年で水の泡になりかねない状況だ。

立て続けに生じた不祥事のため、業界全体の問題と見られている向きもある。しかし、加藤勝信官房長官は6月4日午後の定例会見で、各社の不祥事に対する「政府の責任をどう考えるのか」とした問いに、「個々の企業でそうしたこと（不祥事）が起きていることは、切り分けて考えるべき」と回答。田村憲久厚生労働相も6月1日の国会答弁で、品質問題は「例外的には出てきている」との認識を示している。現在、日本ジェネリック製薬協会の主導のもと、会員会社がそれぞれ品質管理などの自主点検を進めて

## 「骨太の方針2021」について

いるが、白黒ははっきりさせる良い機会だ。ぜひ胸を張って品質の高さを示してほしい。

骨太の方針では「23年度末までに後発医薬品の数量シェアを、全ての都道府県で80%以上」とする新目標を打ち出している。ちなみに冒頭のアンケート調査では、父の日にプレゼントを「贈る」と回答した人は64.0%で、都道府県別ではジェネリック医薬品と同様、沖縄県が89.2%とトップだったが、80.0%以上は沖縄のほか、鹿児島、島根、愛媛、山口の計5県止まりだった。いずれにしても両者とも今後の行動次第で上にも下にも振れる。